



- ご当地 Vtuber の全体像
- ご当地 Vtuber の人間関係
- ご当地 Vtuber を運営する時代

ご  
当  
地

一般 Vtuber  
との違いとは？

V  
tuber  
の

世  
界

今と未来について解説

現状は  
ブルーオーシャン  
企業が次々と参入!?

≡  
✔  
メリット  
&  
デメリット  
✔

【最先端】地域密着型インフルエンサー

著者: 翔太・バーチャル マーケティング

# ご当地Vtuberの世界

## はじめに

ある日。  
バーチャル世界で一人のご当地Vtuberに出会った。

彼女に惹かれた。

心の奥底でハネ上がる激しい衝動。  
「彼女をもっと知りたい。」  
彼女のチャンネルのアーカイブを片っ端から見た。

彼女の姿を追いかけていた僕は必然、ご当地Vtuber界を知った。  
同時に、考察者が不在と知る。  
そして僕は、ご当地Vtuber界の考察者になりたいと思ったのだ。

昼過ぎに起きると同時に、ノートパソコンを起動。  
コーヒーとチョコレートをつまみ、カフェインと糖分を摂取しながら、ご当地Vtuberのチャンネル内のアーカイブを片っ端から見る。  
数時間後、あ～だこ～だ ご当地Vtuber界を考察しながら河原沿いを歩く。  
日が沈むころに帰宅して、またご当地Vtuberのアーカイブを見る。  
そーいや、まだ飯食ってなかったと気付いて、冷蔵庫の中から適当につまむ。  
部屋の中で運動している最中も、日をまたいで朝日が昇る頃の夜食の最中も、常にご当地Vtuberのアーカイブを見る。

起きている時間のほとんどを、ご当地Vtuber界の考察にあてた。残りの時間は、思考力回復のための仮眠・睡眠。

そんな風に過ごしていると、自然といろいろ気づきがある。気づきを集めて、整理する。整理していると疑問点が浮かんでくる。  
疑問点の要因を考察すると、原理原則・本質が見えてくる。  
そんな風に膨大な時間と労力と思考力を使って、現段階で僕が理解している内容の中でも、特に重要な内容をこの本にまとめた。

正真正銘、「世界初のご当地Vtuber考察本」である。  
最後まで楽しんで読んでいただければ、著者として幸いである。

# 1章:ご当地Vtuberの全体像

## ご当地Vtuberとは？

ご当地Vtuberとは、ご当地(特定の地方)に特化したVtuberです。ご当地の魅力やネタを発信する、地域密着型のVtuberといえます。

ご当地Vtuberが現れはじめたのは、2018年上半期くらいからです。そして2018年下半期から、さらに増えた印象があります。初のVtuberであるキズナアイの活動開始が2016年11月ですし、他のVtuber四天王たちも2017年11月くらいに活動開始しています。つまり、2018年上半期頃から現れはじめたご当地Vtuberは、Vtuber全体の歴史から見ても比較的早い段階から存在していたのです。

「ご当地Vtuber大百科」では、多くのご当地Vtuberをデータベース化しています。(随時更新するのでブックマークすれば便利。)

➡[ご当地Vtuber大百科](#)

・・・しかし、「ご当地Vtuber大百科」に記録している以外にも、ご当地Vtuberを自称するVtuberはたくさんいます。ですが、僕の極めて個人的な独断と偏見で、「ご当地Vtuber大百科」に載せるか否かを決めています。

その理由は…、

1. ゲーム配信内で、たまに「そういやウチの地元では～」みたいに、ゲームのついでにご当地ネタを話すだけのVtuber
2. 企業運営であり、自社のアピールしかしないVtuber

…という感じの、ご当地要素が希薄なVtuberも、いるからです。

しっかりご当地の魅力やネタを発信するVtuberもいる反面、ご当地Vtuberを名乗りながら、ご当地要素が希薄なVtuberも少なくないのです。また、「〇〇県出身」というだけでご当地Vtuber扱いされる傾向も少なからずあります。ごくごく個人的な意見を言うならば、「ご当地Vtuberとは言い難いかな・・・」と、思います。

とはいえ、ご当地Vtuberの厳密な定義は難しいです。

「全動画の何%以上がご当地関連なら、ご当地Vtuberなのか？」

「そもそも、どこからどこまでを”ご当地関連”と判定するのか？」

というように、万人が共有できる厳密なラインを引くことはできません。

なので、“僕なりの基準”で、ご当地Vtuberを定義した上で、「ご当地Vtuber大百科」でご当地Vtuberたちの発信内容を随時データベース化していきます。

話が少しゴチャついてきたので、今回の要点をまとめます。

■ご当地Vtuber＝特定のご当地の魅力やネタを発信する、地域密着型のVtuberと、僕は定義しています。

## 大別すると8パターン

ご当地Vtuberは、3つの軸で8パターンに大別できます。

3つの軸

- ・個人運営or企業運営
- ・都道府県特化or市町村特化
- ・非公式or公式

それぞれを解説していきます。

- ・個人運営or企業運営

Vtuber界では個人運営は個人勢、企業運営は企業勢と呼ばれていますよね？それは、ご当地Vtuber界においても同じです。

少ない資金でLive2Dなどを作成・活用してVtuber活動ができるようになった現状、地元の魅力を発信する個人勢ご当地Vtuberもたくさんいます。好きな地元の魅力を発信するため、利益が労力に対して全く見合わなくても純粋な情熱で楽しみながらやっているような個人の運営者も多いです。

しかし、個人勢でもしっかりと利益を出したほうが活動の幅が格段に広がります。特に、青森県Vtuberである青森りんこさんは、しっかりと利益を出すことにもフォーカスして戦略を練っているので、多数の企業案件を獲得しています。結果、活動の幅がどんどん広がるのです。また、青森りんこさんについては、この動画で考察しています。

➡ [個人勢ご当地V青森りんこさん考察](#)

そしてとうぜん、企業が運営しているVtuberは、当然 利益を出すことが必要不可欠となります。そのための収入源は、グッズ販売や企業案件になります。ここで利益を確保しなければ、Vtuberを運営しつづけることは困難です。(サントリー公式Vtuber 燦鳥ノムさんのように、企業のPRで知名度を上げて、別商品で収益を増大させるパターンもあるが)なので当然ですが、企業勢は特にしっかりと利益を出すことに取り組んでいます。

- ・非公式or公式(公式は 自治体”運営”or”後から公認”の2パターン)

公式とは、自治体が運営・もしくは公認するVtuberです。

茨城県庁が運営する茨城県公式Vtuber・茨ひよりさんが最も有名なので、知っている人も多いでしょう。そして、茨ひよりさんをはじめとして、都道府県公式Vtuber・市町村公式Vtuberをあわせて、15名以上が誕生しています。(※しかし、お金をかけている割に短期間しか活動しないパターンが多いのが難点です。これは、4章でくわしく書きます)

また、自治体運営でなくても、後から自治体から公認されて、後天的に公式Vtuberになるケースもあります。

それが、大鷲エルさんとキミノミヤさんです。

両名とも、運営会社は同じXRエンターテインメント社であり「よんしー」という同じVtuber事務所に所属しています。大鷲エルさんは、中京テレビの正式なアナウンサーであり、アナウンサーリストにも人間の顔が並ぶ中に、Vtuberである大鷲エルさんの顔が並んでいるのです。中京テレビが

関わるVtuber関連のイベントなどで、後述するキミノミヤさんとともに司会を務めることが多いです。

そして、2020年9月30日、名古屋市長である河村市から「名古屋観光文化交流特命大使」に任命されました。これは、「自治体運営ではないが、自治体から公認された」ということを意味します。

つまり、大蔦エルさんは、後天的に愛知県名古屋市公式Vtuberになったのです。

そして、愛知県ご当地Vtuberであると同時に、日本全域の魅力を英語で海外に発信するバイリンガルVtuber・キミノミヤさんも、後天的に自治体公式Vtuberになりました。(前述したとおり、大蔦エルさんと同じ運営会社であり、同じ事務所に所属しています。)

2019年3月19日、愛知県庁 観光振興課から「あいち観光バーチャルサポーター」第1号に任命されたのです。愛知県庁 大村知事より直々に、委託状を受け取りました。

つまり、キミノミヤさんは、後天的に愛知県公式Vtuberになった事例と言えます。

ここまで解説したとおり 公式Vtuberは、自治体”運営”or”後から公認”の2パターンがあるのです。そして、それ以外のVtuberが非公式です。

仮に”公式”と名乗っていても企業運営であり、”企業公式Vtuber”であるパターンもあります。その場合は、自治体が運営も公認もしていないため、”ご当地Vtuberとしては非公式”であると僕は定義しています。公式Vtuberよりも非公式Vtuberの方が、圧倒的に多いです。これは、[ご当地Vtuber大百科](#)の目次を見れば、一目瞭然です。

・都道府県 特化 or 市町村 特化

都道府県 特化とは、「〇〇県ご当地Vtuber」のように、都道府県に特化したご当地Vtuber。市町村 特化は、さらに細分化して「〇〇県〇〇市ご当地Vtuber」のように市町村単位で絞ったご当地Vtuberです。

現時点では、「〇〇県ご当地Vtuber」のように、都道府県に特化したVが多いです。しかし、「〇〇県〇〇市ご当地Vtuber」のように市町村特化のVも、少しずつ割合が増えてきている印象です。おそらく今後、日本全国のご当地Vtuberの総数が増えていくに従い、市町村特化Vtuberの割合が増えていくでしょう。

その根拠は、「ご当地萌えキャラ」の現状です。

ご当地萌えキャラは日本全国に多数存在しています。そしてその大半を、市町村特化のご当地萌えキャラが占めています。つまり、競争が増えてくると、それぞれが自分のポジションを得るために、より専門化・ニッチ化していくのです。

そして、ご当地Vtuber界も同じように、今後 活性化して新規参入者が増えるに従い、ご当地萌えキャラ界と同じくより専門化・ニッチ化していくと思われます。つまり、市町村特化Vtuberの割合が徐々に増えていくでしょう。

今回の話をまとめると、

### ■3つの軸

- ・個人運営or企業運営
- ・都道府県特化or市町村特化
- ・非公式or公式

## ■8パターン内訳

1. 個人運営・都道府県・非公式
2. 個人運営・市町村・非公式
3. 個人運営・都道府県・公式
4. 個人運営・市町村・公式
5. 企業運営・都道府県・非公式
6. 企業運営・市町村・非公式
7. 企業運営・都道府県・公式
8. 企業運営・市町村・公式

...といった具合に、8つに大別されます。

## 「一般V＝広く 浅く」「ご当地V＝超狭く ちよつと深く」が、現状の視聴者層の傾向

Vtuber界全体では、現在1万6千人～3万人のVtuberが存在すると言われています。それに比較すると、ご当地Vtuber界は現在その 1/250 位の規模のイメージです。(※これは、僕の感覚的なイメージで言っているのので、客観的なわかりやすい証拠ではなく、個人的な認識です。)

もちろん、存在するVtuberすべてが活動を継続しているわけではありません。Vtuber界全体でも、ご当地Vtuber界でも、活動を停止している人はいます。それも引くくめて、

■ご当地Vtuber界＝Vtuber界全体の 1/250 くらいの規模のイメージです。

ご当地Vtuberたちは、お互いを強く意識しあっていて、ご当地Vtuber同士の交流の頻度が高いです。もちろん、ご当地Vtuber以外の一般Vtuberとも交流はしています。

前述の通り、ご当地Vtuberは一般Vtuberに比べると母数も圧倒的に少ないのですが……。しかし、ご当地Vtuberがコラボする相手は ご当地Vtuberである確率が3割くらいを占めている印象です。

また、直接コラボしないときも、他のご当地Vtuberのライブ配信のチャット欄に現われて、配信者は「あ、○○ちゃん(ご当地Vtuber名)が来てくれた～！」と、積極的に反応するようにしています。

つまり、ご当地Vtuberはお互いを強く意識しあって、協力してご当地Vtuber界を盛り上げようとしているのです。(また「#ご当地Vtuber倶楽部」というハッシュタグがあるので、それを使ってツイートすれば、新人ご当地Vtuberも認知されやすい環境です。)

ご当地Vtuber界は、地方活性化のために大きな可能性にあふれた市場です。しかし、VTuber業界全体 ひいてはYouTubeやインターネット全体からしたら、まだまだ未知の業界です。

なので、存在を認知させて興味を持ってもらう必要があるのですが、現状は ■「一般V＝広く 浅く」「ご当地V＝超せまく ちよつと深く」が、視聴者層の傾向といえます。

ご当地Vtuberは、地元民がご当地という共通点から共感してくれやすく、比較的容易に深いファンになりやすいメリットがあります。しかし反面、ご当地に関係がない地元民以外からは、なかなかファン化されにくいというデメリットがあります。

(3章で、メリット・デメリットについて詳しく解説します。)

ご当地Vは、活動開始後、地元民のチャンネル登録者が集まりやすいですが、しばらくすると伸び悩む傾向にあります。

なので、ご当地Vtuberは前述の「超せまくちょっと深く」の”超せまく”の部分を拡大していく…。つまり、地元民以外の人にも興味を持ってもらえる工夫をすることが大切になるのです。

…ここまで読んでいただき、ありがとうございます。

続きは、アマゾンで**99円**で読めます。

➡ [Amazon販売ページへ](#)

---

## ■目次

### 1章:ご当地Vtuberの全体像

- ・ご当地Vtuberとは？
- ・大別すると6パターン
- ・「一般V＝広く浅く」「ご当地V＝超狭くちょっと深く」…が、現状の視聴者層の傾向

### 2章:ご当地Vtuberの人間関係

- ・ご当地Vtuberの筆頭というべき人物とは？
- ・ご当地V同士のコラボ配信を推進している人物とは？
- ・海外のVtuber視聴者に対し、日本国全体の魅力を発信している人物とは？
- ・この中で、特に着目すべきVtuber

### 3章:ご当地Vtuberのメリット・デメリット

#### ・メリット

- 地元民のファンがとても付きやすい
- 一般Vtuberよりも、はるかに企業案件がきやすい
- 上手くご当地の魅力を伝えられれば、それ自体が強力な差別化要素になる。

#### ・デメリット

- 地元民以外のファンが付きにくい。
- ご当地要素と、エンターテインメント性を両立するのに多くの工夫と試行錯誤が必要。  
(逆に言えば、それができれば希少価値の高い強みになる)

### 4章:都道府県や市町村も、ご当地Vtuberを運営する時代

- ・茨城県公式Vtuber 茨ひより 最下位脱出！
- ・自治体公式Vtuberは、現時点で10名を超える
- ・多くの自治体公式Vtuberが抱える課題。

5章:ご当地Vtuberの本質＝最先端 地域密着型インフルエンサー

- ・コレクティブ・マーケティング×バーチャル×ご当地
- ・ご当地萌キャラ・ご当地ゆるキャラがVtuber化している
- ・新規参入者のレベルは上がっている傾向

6章:ご当地VTuber界は、新しいフェーズに突入

- ・ご当地VTuber界は、“壁”を突破しつつある
- ・”個人運営Vが県公式の観光大使”という大きな転機
- ・「知名度が低い」「公共性が高い」Vへの攻撃・炎上のリスク
- ・ご当地VTuber×メタバース

7章:ご当地Vtuber界を未来予測

- ・現状はブルーオーシャン。企業が次々と参入してくる
- ・需要も供給も拡大していく
- ・「〇〇系ご当地Vtuber」のように、ジャンルが細分化されていく？
- ・バーチャル世界とリアルご当地を繋ぎ、日本再興へ

---

【2021年1月1日:Ver1.0発行】

【2021年12月3日:大幅加筆 & 修正 Ver2.0発行】

➡ [Amazon販売ページへ](#)

[ご当地VTuberの世界:Ver2.0](試し読み版)